

## FUKUUZU タイムス VOL.7

2022 年度 1 次隊

派遣国:ウズベキスタン

職種:ラグビー

氏名:森谷理央



### ●近況報告

皆さんこんにちは。早いもので、私の任期も残り2ヶ月程となりました。赴任した際は、2年という歳月が果てしなく感じられ、この地で自分が2年間も生活できるのだろうかという不安の方が大きかったのですが、まさに光陰矢の如しで、月日が瞬く間に過ぎ去っていったように感じております。

1年目を過ぎてからはラグビーの活動も充実してきて、お便りを更新できない期間もありましたが、何とか7号まで辿り着くことができました。

恐らく、次回の第8号で最終号となりますが、何卒、最終号までお付き合い頂ければ幸いです。

### ●結婚式

さて、今回はウズベキスタンの結婚式についてご紹介したいと思います。先月、知り合いの親戚の結婚式に急遽ご招待頂き、キルギス国境にほど近い「シタン」という街に行ってきました。「急遽」という言葉に違和感を覚えた方は少なくないかと思いますが、ウズベキスタンの結婚式は、基本的に誰でも大歓迎です。ご祝儀は要りませんし、賓客として招いて頂けるので、飲食代もかからないという太っ腹な文化です。今回は私の他、旅行者としてこの街を訪れたロシア人家族も急遽招かれていました。新郎新婦のご家族が「ウズベキスタンの結婚式はお金がかかる…」とため息を漏らしていたのは後日談です。



ウズベキスタンの結婚式には必ずと言っていいほど、音楽隊が出席します。

結婚式の様式は、地方や民族によって、飲酒の有無も含めて多種多様ですが、今回の結婚式は、午前中が新婦側の親族、友人がメインの式、午後が新郎側の親族、友人がメインの式という二部構成でした。この他、前日には、屋から双方の本家の庭で、前夜祭のようなものもあり、そこでも美味しいご馳走を沢山頂きました。

因みに、この地方は、ウズベク人の他、タジク人も多く住んでいるのですが、今回の新婦側はウズベク人、新郎側はタジク人という組み合わせでした。同じ国、地域ながら、午前中はウズベク語が飛び交い、午後はタジク語が飛び交うという、単一民族の国、日本から来ている自分としては、非常に興味深い体験でした。



出席者や親族から盛大に祝福される花嫁。

結婚式の様子としては、兎に角、踊る、歌うということに尽きます。まずは、音楽隊の盛大な音楽に始まり、途中、新郎新婦、親族、友人からのスピーチも入りますが、その間、兎に角、皆が踊りに徹します。時には、音響が大きすぎて会話もままなりません。そして、来たいときに来て、帰りたいときに帰るといった自由な形式もこの国らしい特徴です。



式の途中に民族歌謡を披露してくれた女性の音楽隊。異国から来た自分に興味津々の様子だった。

私は今回、前日入りして、前夜祭から招いて頂いたのですが、前夜祭において、多くの親戚の方と盃を交わしたためか、色々な方にお酒をご馳走になり、最後には急速スピーチもさせて頂きました。ウオッカの洗礼は正直、身体には応えましたが、本当に貴重な体験をさせて頂き、多くの友人もでき、いい思い出となりました。何より、ウズベキスタン人の家族を大切に思う姿勢には学ぶところが多いなと改めて思いました。



次回は最終号ですが、やはり最後はラグビーの話題で締め括りたいと思います。ここまで読んで頂き有難うございました。